

開講期	2026年度後期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	5233 沖縄文化論2			開講形態 (隔週 偶数 = 隔週2コマ)	週間授業
種別	人数制限(抽選)			定員	82
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	○	全学開講	○
曜日時限	金曜3限				
教室	H403教室				
代表教員	津田 博幸				
担当教員	津田 博幸				
テーマと到達目標	現在の沖縄県と鹿児島県奄美地方は16世紀まで〈日本国〉の一部ではなく、琉球王国という別の国だった。この授業ではこの地域の文化を「沖縄文化」と呼ぶことにする。そこには独自の文化がかつてあり、かつ現在も部分的には残存している。この琉球王国の歴史と文化について、文献史料と現在の映像・音声記録などに基づき、理解することを目標とする。それは他者理解であるが、隣の国であった〈日本〉の理解にも資するであろう。				
概要	沖縄諸島の王国時代から続いている祭とそこに現れる神について考える(昨年度の「神話と儀礼」からの継続)。〈日本〉の祭の多くは抽象的表現になっているが、沖縄の祭には神が異界から祭の場に現れて神話を実演したり、呪力のある言葉を述べたり、歌ったりすることが明瞭に表現されているものがある。そういう祭ではそもそも祭の時空が神の世界なのだと言ってもよい。空間としては異界であり、時間としては始原の時である。年に一度の祭で世界は始原の異界になる。そのことによって世界は再生するのである。沖縄の祭文化を考えることで、そのようなものを作り出す人間の文化への理解を深めたい。講義形式。なるべく楽しくやりたい。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員(複数の教員が担当する場合のみ記載)	授業方式
第1回	宮古島狩俣の祖神(ウヤガン)祭概説。				対面授業
第2回	祖神祭の神歌「フサ」の基本形式概説。				対面授業
第3回	水を求めて放浪する神の物語(「祓い声」)。				対面授業
第4回	祖神祭の起源(「山のフシラズ」)。				対面授業
第5回	戦いと復讐の物語(「ミヤームギ」)。				対面授業
第6回	浮気夫に追い出された妻の絶望語り(「磯殿」)。				対面授業
第7回	石垣島川平の節祭と来訪神マングナシ。				対面授業
第8回	節祭の起源神話——大歳の客。				対面授業
第9回	マングナシと日本の古代神話(常陸国風土記・備後国風土記)。				対面授業
第10回	神の言葉は何を語るか——マングナシの神口(カンフツ)。				対面授業
第11回	二つの来訪神——ニランタフヤンとマングナシ。				対面授業
第12回	時間の変わり目(大晦日の夜)と異界との回路(『日本霊異記』『君の名は。』)。				対面授業
第13回	来訪神としての弥勒——八重山諸島の豊年祭。				対面授業
第14回	祖霊の訪れ——八重山諸島のアングマ。				対面授業
第15回	沖縄の祭から見る〈日本〉の祭。				対面授業
成績評価の基準	全授業時数の3分の2以上の出席と課題提出を必須とする。毎回ポータルを通して課題(その日の講義内容に対する理解の確認、発展的考察・質問などを200字以上)を提出(欠席した回の課題提出は不可)。毎回の課題の評点の総計で評価する。				
履修にあたっての留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「沖縄文化論1」(前期)と合わせて履修されることをお勧めする。 ・06回までは昨年度の「神話と儀礼」の引き続きであるが、新規受講者にもわかりやすいよう解説するので安心されたい。 ・オンライン授業の併用は原則として行わないが、受講者に病気等のやむをえない事情がある場合はZoom中継の視聴および講義後のZoom録画の視聴を認める。希望者は講義開始の30分前までにポータルの「授業Q&A」で申し出ること。ただし、Zoomでは教室で視聴する映像資料の中継はできない。なるべく教室での出席をお勧めする。 				
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細					
【種別】人数制限(抽選)授業	T学科の低学年から順に優先				

の優先条件

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用	なし。		
教科書	プリントを配付。	教科書(ISBN)	
参考文献	授業中に適宜指示。	参考文献(ISBN)	

◆合理的配慮

本学における修学支援基本方針について	本学における修学支援基本方針は以下URLを確認してください https://www.wako.ac.jp/campuslife/barrier-free.html 合理的配慮を希望する場合は基本方針およびシラバスを熟読の上で申請すること
--------------------	--